

令和 7 年 2 月 27 日

浜田市議会議長 様

議員名 村木 勝也

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

1. 視察先

- ・ 愛媛県愛南町 愛南町役場
- ・ 愛媛県宇和島市 伊達博物館

2. 視察事項

- ・ 水産環境未来都市構想について
- ・ 海業の推進について
- ・ 建て替える伊達博物館の見学

3. 視察の目的（市政との関連など）

水産業の振興と第一次産業を核としたまちづくりの推進。

建設予定となっている新博物館の予定地と既存施設（第一次産業）の視察。

4. 期間（移動日を含む）

令和 7 年 2 月 12 日(水) ～ 令和 7 年 2 月 13 日(木)

5. 経費 25,364 円

高速料金 浜田インター～大洲松尾（山陽道経由） 11,390 円

大洲松尾～浜田インター（中国道経由） 11,290 円

燃料費 14,941 円 ・ 宿泊費 41,000 円 ・ 駐車場料金 700 円

伊達博物館入館料 3,500 円 ・ レンタカー利用料 44,000 円

合計 126,821 円を 5 名で案分 1 名あたり 25,364 円

6. 視察のポイント・議員活動や市政への反映など

- ① 全国的に取り組みが進んでいる「海業」の取組を学ぶこと。
- ② 水産業のみならず町全域の産業を核としたまちづくり、協議会の運営方法等の聞き取り調査を行い「海業」の導入を働きかける。
- ③ 現在、計画にある「浜田郷土資料館」の建設の参考とする。

7. 視察内容

（詳細は別紙のとおり）



【視察概要】

1. 愛南町の概要

- ・ 愛媛県の南端に位置する南宇和郡の旧 5 町村が平成 16 年 10 月 1 日に合併し愛南町となった。
- ・ 人口 1973 人 面積 239 m²
- ・ 主な産業 漁業・養殖業
- ・

漁業	令和 5 年水揚げ	16547.3 トン	金額	2,735 百万円
養殖業	令和 5 年水揚げ	17.871.3 トン	金額	20,761 百万円

2. 水産環境未来都市構想の目的

愛南町の強みを生かし、弱みや課題を克服し経済・社会・循環の 3 側面における新しい価値創出を通じて、持続的な漁業の振興やまちづくりを推進するため。

3. 水産環境未来都市構想 6 つの柱

- ① 愛南海の森ブルーカーボンプロジェクト
- ② 海洋プラスチックごみ対策プロジェクト
- ③ サステイナブルフィッシュ開発プロジェクト
- ④ ゼロミッション、ゼロ・ウェイストプロジェクト
- ⑤ スマート水産業推進プロジェクト
- ⑥ 海洋環境人材育成プロジェクト

4. 愛南町における海業の概要

- ① モデル地区を希望した経緯と目的
何もしないと衰退していく危機感を持っていた。生かし切れていない町内の豊かな「食」と「自然」を町全体が一体となって生かしたいと考えた。
高規格幹線道路の開通を見越した基盤づくりが必要であり「愛南町 SDGs 水産環境未来都市構想」の策定を契機とした持続可能なまちづくりを目指し令和 5 年 1 月 20 日海業振興モデル地区申請書提出。
令和 5 年 3 月 8 日水産庁プレスリリース。モデル地区に選定された。
- ② 愛媛大学南予水産研究センター開設
平成 20 年 4 月に愛南町役場西海支所内に旧西海庁舎を有効活用し船越ステーションを開設。
平成 25 年 4 月に愛南町地域産業研究・普及センター内に旧西浦小学校を有効活用し西浦ステーションを開設。
- 研究内容～レジデント型教育の実践～
 - ① 漁業環境の研究
 - ② 養殖魚の生態に関する基礎研究
 - ③ 水産物の普及・販売・流通に関する研究
 - ④ 水産人材の育成
- ③ 海業推進会議
愛南町の水産業をはじめとした農業、観光業、商工業、活動団体等、幅広く

町に関わる企業、団体等で構成される。基本理念は多主体連携による自律的な取組の創発。事務局は愛南町役場。

会議の進行は「海業推進室」の室長、愛媛大学の関係者が担っており、室長は水産庁から出向している職員。

立ち上げ間もないことから課題も多く、町の取組へ主体性を持ってかわることが当面の課題。

5. 質疑応答

Q カーボンクレジットの申請手続きと販売について

A 愛南町のブルーカーボン事業は磯焼け対策のガソガゼウニの駆除と真珠養殖の筏の繁殖した海藻で申請しており申請は町役場の担当課と養殖業者、愛媛大学も協力してくれている。直近の販売量は約 34 t。1 トンあたり税込み 5.5 万円で販売しており販売益は真珠養殖業者の収益としている。

Q 海洋プラスチック対策について

A 愛南町は真珠養殖をはじめ養殖業が盛んであり、筏などに使用する発泡スチロールのブイの処理が課題となっていた。海業の助成事業を活用し樹脂燃焼ボイラーと樹脂圧縮成型機を導入した。本来、発電用燃料として売却を考えたが燃焼温度が低いため売却が出来なかったため、ボイラーの燃料としている。

アコヤガイ種苗施設や町内の温浴施設などの熱源として有効活用している。

Q 移住・定住者の状況と推進策について

A 移住・定住者は年間約 80 名前後で推移している。海業の取組も一定の好影響もあるかと思うが限定的。次年度は国の補助制度を活用した中間支援組織の設立一般社団法人組織で設立を考えており、主にまちづくりとツーリズムを担ってもらうことを想定している。

【所管】

久し振りに「町役場の先ずはやってみる」を見させていただき、「ブルーカーボン」の基礎データ調査を町で行ったことに驚きました。確かに、町役場出身の私の経験は、「委託」の前にやってみるものの大切さを思い出しました。

地域交通の担当時にバスダイヤを自分で歩き、ダイヤ図を引きながら JR や国道バスとの接続ダイヤを作ったことを思い出しました。

次に興味を持ったのは「海業推進会議」です。

その町の強みを活かして「漁業・水産業、農林業、飲食・販売業、宿泊・旅行業、レジャー事業、観光業、金融業などを営む事業者の皆様、教育・研究関係、地域おこし協力隊、メディア等々、海に関わる多数の利害関係者の皆様に集まっていただき、アイデアや提案、意見等を出し合って、海や漁村を舞台とした未来の愛南町を描く。」この「海業推進会議」は、町役場だからできるのか。いや、市でも可能ではないかと思いました。

愛南町海業グランドデザインは、住んでなくてもワクワクする内容です。令和 7 年度から実現に向けてスタートと聞きました。今後も、愛南町を注目したいです。

視察から数日後「児童が放課後過ごせる「第三の居場所」完成 愛南町が整備（愛媛）」という記事を見ました。愛南町が B&G 財団（東京）の助成金を活用して整備する「子ども第三の居場所」の施設が、同町御荘平城の御荘夢創造館の敷地内に完成した。との記事です。浜田市も B&G 財団の施設を所有しています。一つをテーマとして取り組む町は、結果として、「暮らし」が充実すると思いました。

【視察概要】

1. 宇和島市伊達博物館の概要

元和元年(1615)宇和郡板島の地(現在の宇和島)に初代秀宗が入国して以来、宇和島は伊達十萬石の城下町として発展してきた。昭和47年に市制50周年を迎えた宇和島市が後世に残す文化施設として、博物館を建設。宇和島藩や伊達家の資料、約3,000点を所蔵している。

2. 宇和島市伊達博物館の課題

- ・ 築年数が50年以上経過し老朽化が進み耐震化基準を満たしていない。
- ・ 約3,000点の資料の内、大半は伊達家が所有しており、財団から借り受けた物で企画展示などを行っている。
- ・ 年間入場者数 8,063人 入館料収入 約234万円
- ・ 年間管理費 約8,750万円

3. 博物館建て替えを巡る動き

- ・ 平成31年3月第1回目の伊達博物館立替委員会開催。
- ・ 新博物館建設予定地である「天赦公園」へ2026年度の開館を目指して計画を進める。
- ・ 天赦公園への移設に反対する市民グループ「天赦公園を守る会」が6,835名分の署名を集め令和4年5月、住民投票条例の制定を宇和島市に本請求。
6月定例市議会の産建教育委員会で、住民投票条例案に最低投票率を盛り込んだ修正案を賛成多数で可決した。
- ・ 宇和島市議会は令和4年6月17日、定例本会議を開き、市立伊達博物館を隣接する公園へ移転改築する計画への賛否を問う住民投票を賛成少数で否決。
宇和島市議会は2回とも請願を否決している。
- ・ 市民グループの反対理由
- ・ 年間管理費 旧博物館 約8,750万円 新博物館 約1億7,000万円
人口が減少し税収も減り続ける中の増額であること。
- ・ 天赦公園は沼地であったため、地盤が弱い。津波被害を受ける高さであること
- ・ 年間来場者数が約8,700人前後しかない博物館に対し高額な建設費である。

4. 新たに建て替えが予定されている博物館の概要

昭和49年に開館した伊達博物館の経年劣化は激しく、近い将来に起こるとされている。南海トラフ巨大地震に対する耐震性もないため、宇和島が誇る歴史文化を安心して後世につなぎ、その魅力を国内外に発信するために新しい博物館を整備。

なお、新博物館は天赦公園内に移転し、現博物館敷地跡は建物解体後に児童向けの公園として整備する予定。

5. 建物概要

- ・ 鉄筋コンクリート造、地上2階建て
- ・ 博物館延床面積 1階 2,452.01㎡ 2階 1,911.47平方メートル

建物合計 4,539.26 平方メートル

- ・ 博物館棟主要室面積 1 階 常設展示室 約 400 平方メートル
研修室 約 200 平方メートル
2 階 企画展示室 約 390 平方メートル
収蔵庫 約 450 平方メートル
附属棟 約 150 平方メートル
- ・ 駐車場 合計 56 台分 駐輪所 40 台分
- ・ 事業費 総事業費 約 59.3 億円
- ・ 財源 国庫支出金 約 21.8 億円 (都市構造再編集中支援事業)
- ・ 市債 約 33.1 億円 合併特例事業債 (充当率 95% 交付税算入率 70%)
- ・ 一般財源 約 4.4 億円 実質負担額 約 14.4 億円

6. 建設に至るまでの経緯

- ・ 平成 31 年 3 月 伊達博物館立替委員会開催 平成 31 年 3 月～令和 5 年 8 月
計 18 回の開催
- ・ 令和 1 年 7 月 基本構想策定 パブリックコメント、市民説明会実施 (7 回)
- ・ 令和 3 年 2 月 基本計画策定 パブリックコメント、市民説明会実施 (7 回)
- ・ 令和 3 年 11 月～令和 4 年 8 月 基本設計 パブリックコメント、市民説明会実施 (7 回)
- ・ 令和 4 年 8 月～令和 5 年 8 月 実施設計

7. 今後の予定

- ・ 令和 7 年～令和 10 年 本体工事、展示制作業務、会館準備
- ・ 令和 10 年 新博物館開館
- ・ 令和 10 年度以降 現博物館解体、児童公園整備

【所管】

この度の視察先である「伊達博物館」は宇和島市立で、隣接地に新たに「伊達博物館」を建て替える工事について、住民からの建設反対の請願を否決しての建設になっていたことに驚きました。言わば、市長・議会[対]市民の構図でした。また、この施設の建設に当たり、「市立伊達博物館新設の賛否を問う住民投票条例案」の議案まで審議したことに興味を持ちました。

私が三隅町役場勤務時代に、合併の賛否を問う条例制定が町民から請求されました。この時、当時の町長は「住民投票条例の制定は必要ない」などとする意見書を付け、町議会で否決されたことを思い出しました。

宇和島市も同様な意見書を市長が付して、議会が否決したとのことですが、後日調べてみるに「必要数を上回る 3,674 筆の有効署名と共に請求」とあり、その上で議会が否決とのことでした。その町、その町での事情や考えがある中で、地方自治法の手続きにおける住民自治を学びました。

